



奈良県クビアカツヤカミキリ 確認マニュアル



奈良県景観・自然環境課

2021年3月



はじめに

特定外来生物のクビアカツヤカミキリの被害が、2019年に奈良県でも確認されました。

クビアカツヤカミキリは、サクラ、ウメ、モモなどのバラ科の樹木を食害し、枯死に至らせる昆虫です。防除方法は、伐採以外の方法での100%駆除は難しく、被害の確認が遅れると、防除するための費用も手間もかかり、完全な防除が困難になります。

奈良県は、現在侵入初期の段階であるため、早期発見、早期防除を行うことが、今後県内のサクラ、ウメ、モモ等の被害を拡大させないためには大変重要です。

被害を最小限に抑えるためには、できるだけ多くの「目」で確認し、クビアカツヤカミキリの侵入にいち早く気づくことが必要です。

本書をきっかけとして、県民のみなさまにクビアカツヤカミキリについて知識を深めていただき、早期発見にひとりでも多くの方にご参加いただけたら幸いです。

目 次

| | |
|---------------------|---|
| I.クビアカツヤカミキリの被害 | 1 |
| 1. 被害木、被害地の状況 | 1 |
| 2. 全国の被害状況 | 2 |
| 3. 奈良県での被害状況 | 2 |
| II.クビアカツヤカミキリはどんな虫か | 3 |
| 1. クビアカツヤカミキリの特徴 | 3 |
| 2. 間違えやすい昆虫 | 4 |
| 3. 幼虫・脱出孔の特徴 | 5 |
| 4. フラスの特徴、似たフラス | 7 |
| 5. 被害にあう樹木の種類 | 8 |
| 6. 成虫・フラスの確認方法 | 9 |

〈参考〉防除について

I. クビアカツヤカミキリの被害

1. 被害木、被害地の状況

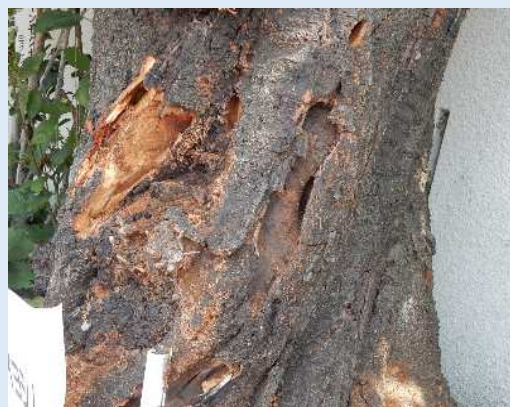
・クビアカツヤカミキリの被害にあうと…

クビアカツヤカミキリの幼虫が樹木内に入ると、内部を食い荒らし、**フラス**（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）を大量に排出する。



・被害が進むと…

幼虫によって樹木が成長する部分や水分や養分の通り道が食害されるため、樹木は大きなダメージを受け、樹幹の一部が枯れたり、枝枯れが起こる。



幼虫の被害は樹木の内部まで至り放置すると枯れてしまう！



ネット掛け対策を行ったサクラ並木

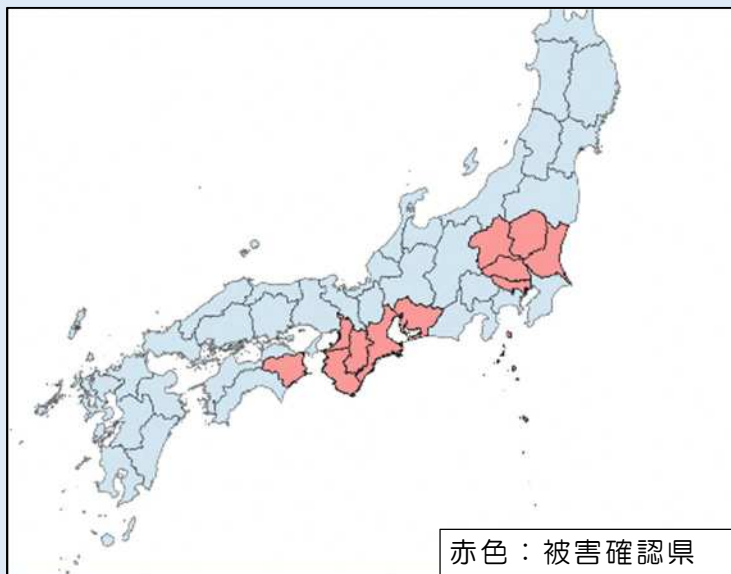


枯れたサクラの様子

写真提供：農林水産省横浜植物検疫所

2. 全国の被害状況

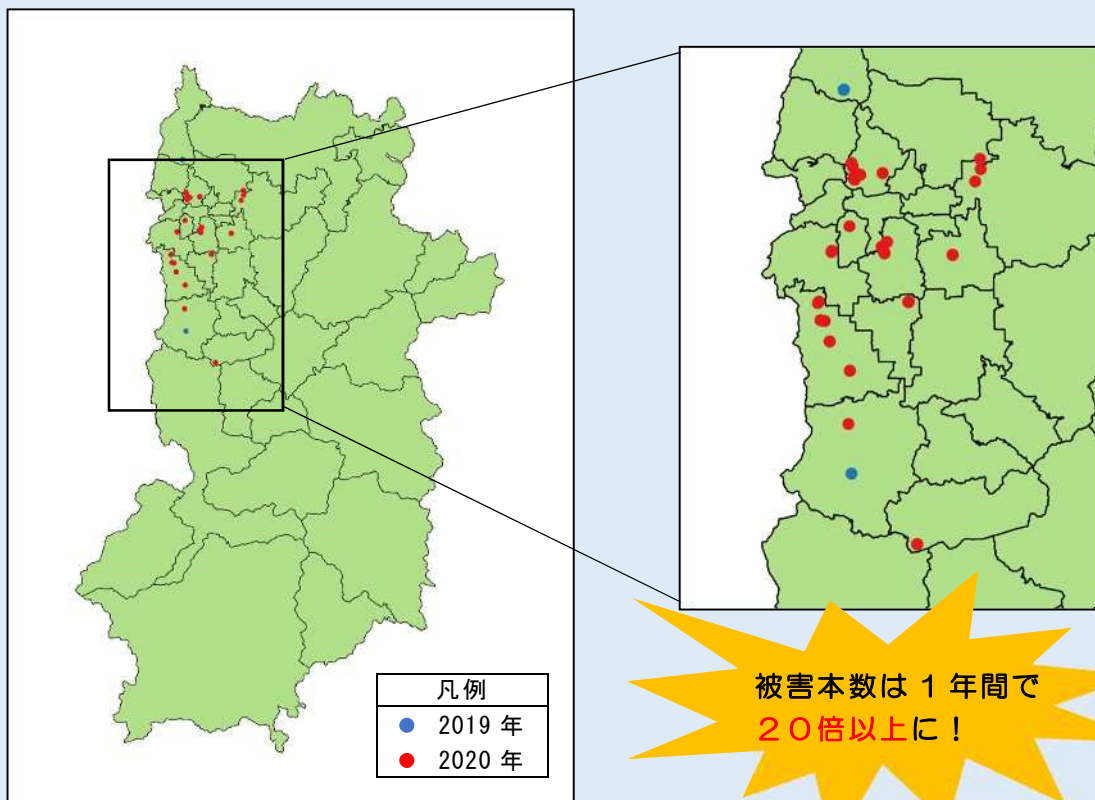
2012年7月に愛知県（名古屋）で初めて被害が確認された後、埼玉県、東京都、群馬県、大阪府、徳島県、栃木県、茨城県、三重県、和歌山県、奈良県へ拡大し、2020年までに11都府県で確認されています。



国内への侵入経路は不明ですが、輸入木材、梱包材などの資材で各地に持ち込まれた可能性が高いとされています。
近隣府県では2015年大阪府南部をかわきりに被害が拡大、2019年和歌山県、三重県で確認されています。

3. 奈良県での被害状況

奈良県では、2019年に初めて2市町3本の被害木が確認され、2020年には12市町のサクラ、モモ、スモモなど69本の被害木が確認されています。



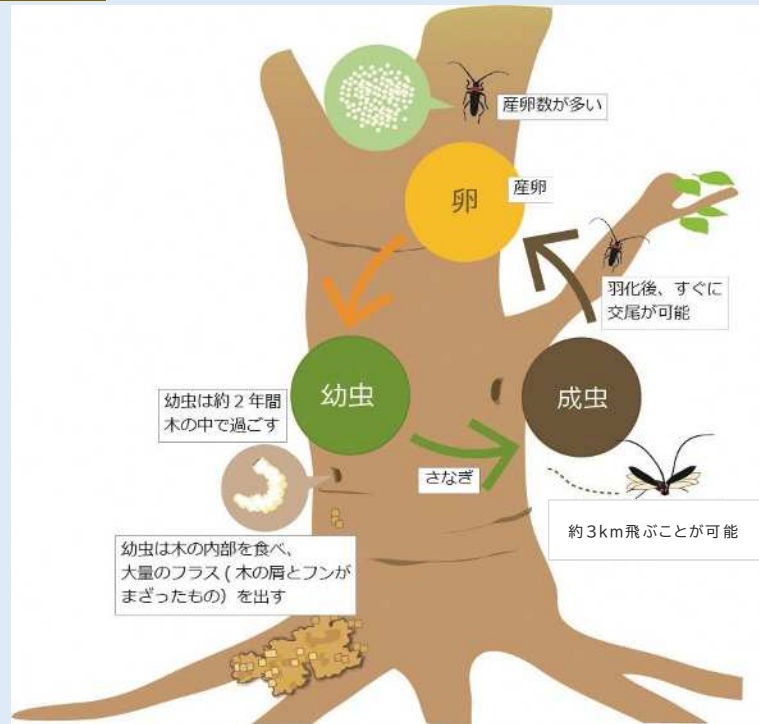
II. クビアカツヤカミキリはどんな虫か

1. クビアカツヤカミキリの特徴

クビアカツヤカミキリの生活環

- 幼虫は、4月～10月樹木の内部を食害し、大量のフラスを排出する
- 5～8月にさなぎから成虫になり木から脱出する
- 成虫は車などに付いて長距離移動することもあると言われている
- メス1匹で卵を約300個以上産むことが可能

高い繁殖力、移動能力をもつため、被害が拡大しやすい



クビアカツヤカミキリの形態

資料提供：公益財団法人吉野山保勝会



成虫 メス♀

胸の前部分が赤い

背が黒くツヤがある

ジャコウのような匂い

体長 2.5～4cm

オスは体より触覚が長い



成虫 オス♂

写真提供：伊藤ふくお氏



幼虫



卵

楕円形。長径1～1.5mm程度
樹皮の割れ目などに産み付けられる

写真提供：埼玉県環境科学国際センター

注意！クビアカツヤカミキリは特定外来生物です！！

クビアカツヤカミキリは外来生物法で特定外来生物に指定されています。
このため、生きたままの個体の運搬や販売、飼育、野に放つこと等が禁止されています。

成虫を見つけたら持ち帰らず、その場で捕殺してください。

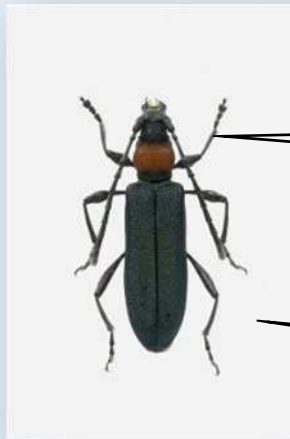
2. 間違いやすい昆虫

ゴマダラカミキリ



背中に白い斑点
昔から日本にいる在来カミキリ
体長2.5~3.5cm

ホタルカミキリ



主にネムノキ(マメ科)の枯死木につく

胸部は赤いがツヤがない

体長 7~10mmと小型

ヨコツナサシガメ

背側



腹側



クビアカツヤカミキリの幼虫の天敵！サクラの樹皮の割れ目などに群生していることが多い。

お腹側が赤い

写真提供：伊藤ふくお氏

脱出孔の形態

クビアカツヤカミキリ

・脱出孔

・脱出予定孔



楕円形
長径2～3cm程度
成虫が脱出した跡



これから成虫が脱出する穴
樹皮が薄く残されている

写真提供：農林水産省横浜植物防疫所

ゴマダラカミキリ



円形（まんまる）
直径1.5cm程度

4. フラスの特徴、似たフラス

クビアカツヤカミキリ

うどん状



粒状



彫刻刀の丸刀で削ったような形状
均一な大きさ、明るい色の粒子

拡大すると…

ゴマダラカミキリ



繊維状の粒子

コスカシバ



顆粒状の粒子

拡大すると…



5. 被害にあう樹木の種類

主に被害にあうバラ科

桜のなかま

公園や名木などに多い種類

エドヒガン



カスミザクラ



山に多い種類

オオヤマザクラ



オオシマザクラ



桜の樹皮の特徴
エドヒガンを除き、多くの桜は横線(皮目)が多数みられる

ヤマザクラ



“染井吉野”(ソメイヨシノ)



モモ

桃のなかま



バラ科が大好き!!

クビアカツヤカミキリは、特に桃や桜が大好きである。早めにこれらの樹木を探して、被害にあうかどうか、観察しよう!

見分け方は花や果実で見分けるとわかりやすいが、実や花のない時期は、葉の形、冬芽や樹皮に注目して判定してみよう。

写真の出典:
「冬芽でわかる落葉樹」(馬場多久男著、信濃毎日新聞社)
「冬の落葉樹図鑑」(馬場多久男著、信濃毎日新聞社)
西宮市北山緑化植物園提供写真

被害未確認のバラ科

梨のなかま



ウメ

梅のなかま



バラ科の特徴



5枚の花びら

リンゴ 林檎のなかま



6. 成虫・フラスの確認方法

| 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 【時期】 成虫 | | | | | ■ | | | | | | | |
| フラス | | | | ■ | | | | | | | | |

【確認場所】

- ・サクラ、ウメ、モモ、スモモの高さ2.5m程度までの樹幹、枝、根元

【確認手順】

- 根元にフラスが積もっていないか
- 樹幹からフラスが吹き出していないか
- (フラスがない場合でも) 樹幹から樹液が噴き出していないか
- 脱出孔はないか
- 成虫が止まっていないか
 - 成虫はその場ですぐに捕殺すること。
 - (生きたまま持ち運ぶことは法律で禁じられています)



【確認事項】

- ・成虫、フラスの出ている場所の写真を撮る。
- ・フラスが出ている木、成虫がいた場所を地図上に記録する。
- ・可能な場合はフラスを採取する。

県、市町村の担当課まで情報提供してください。

〈参考〉防除について

クビアカツヤカミキリを防除するには、以下の方法があります。

- 針金などでの幼虫の捕殺
- 樹幹注入（幼虫の駆除）
- 薬剤散布（成虫の駆除等）
- ネット巻き（成虫の飛散防止）

農薬を使用する際は、使用基準を遵守する必要があります。
農薬のラベルをよく読んで使用してください。

最新の登録状況は農林水産消費安全技術センター（FAMIC）の ホームページ
登録情報で確認の上、使用してください。

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

〒 630-8501 奈良市登大路町 30
奈良県 水循環・森林・景観環境部 景観・自然環境課
電話：0742-27-8757
Mail：ikimono@office.pref.nara.lg.jp

